

不定期
連載

“月刊ステレオの音”が 楽しめるラジオ 集合! ミュージックバード の広場へ

MUSIC BIRD

第二十一回

「高音質放送を余すところなく享受せよ!
最上位チューナーC・T5000CSがやって来た」
■鈴木裕

24ビット放送による高音質な音楽を我々に届けてくれる、衛星デジタル音楽放送・ミュージックバード。その専用チューナーの新たなフラッグシップモデルが、この7月に発売となった。持てる技術を存分に注ぎ、ハイレゾに迫るクオリティの音を目一杯まで引き出そう、享受しようという超・意欲機の誕生——。オーディオ&音楽ファンにはこのニュースは聞き逃せない!ミュージックバードでパーソナリティも務める鈴木裕氏の、自宅オーディオルームからお届けする本機試用レポートに注目しよう。

3000CSの紹介から入ってみたい。
リザーブ電源の威力に唸る
先行して発売された
C・T3000CS

ミュージックバードのチューナーだが、現在のラインアップとしては5機種が用意されている。以下はいずれも、チューナー本体、アンテナDMB・4503、楽曲ディスプレイMBX-1のセット価格(税別)だ。

- ①CDT・3AFD ￥47800
- ②MDT・5CSXi ￥99800
- ③C・T3000CS ￥129800
- ④C・T100CSXi ￥198000

そして7月に発売された⑤C・T5000CS(参考販売価格¥298000)。

今回詳しく紹介していく主役だが、本機に至る流れに通ずるところもあるので、昨年末に先行して登場したチューナーC・T

1980年代前半に登場したNECの名機に、プリ・メインアンプA・10がある。これに搭載された新しい考え方に基づく電源部が「リザーブ電源」だ。従来のコンデンサーインプット型電源の充電電流は、間欠的な電流になり、音楽信号が流れるコンデンサーに強烈なピーク充電電流が流れ込み、音楽信号を歪調する。この欠点を克服するために開発された電源部で、充電電



流が途切れた瞬間に第2の電源が働き、連続した均一の充電電流に近づけるといって考え方。音楽信号を歪調する充電電流のピークも約10dB改善しているという。C・T3000CSはこれを搭載し、さらにチューナー用とオーディオ回路用にそれぞれの捲線を持つRCアトランスを搭載しているのも特徴だ。

その音は帯域的にも色の塗り方としてもムラがなく、整ったもの。RCA端子から

のアナログ出力は素直なトーン。クラシックのソロヴァイオリンではナチュラルなトーンで、低域には量感タイプの成分がある。たとえばチェロやコントラバスの低音や大太鼓の低音感がしっかりしている。ジャズでもドラムスのシンバルやワイプラフォンの高域をきれいに聴かせてくれる。ウッドベースやドラムスのキックはもう少し力感も欲しいところだが、光1系統、同軸2系統のデジタル出力を外部のD/Aコ

photo : S.Takahashi



●ミュージックバード専用チューナー

Conclusion C-T5000CS

オープン価格 (参考販売価格 ¥298,000)

7月に限定生産30台で発売となった、専用チューナーのフラッグシップモデル。「Conclusion」ブランドの名を冠する通り、これまでも高音質路線を押し進めてきた港北ネットワークサービス株式会社が開発を手がける。従来のフラッグシップ機からDACチップを一新し、ESS社のDAC IC「ES9038PRO」を投入。それにともない各パーツの選択から細部に至るまでの見直しが行われ、いっそうの高音質化が志向されている。本体カラーはシャンパンゴールド。※レンタルなし。購入の相談はミュージックバードカスタマーセンター (☎03-3221-9000) まで



〈おもな仕様〉

- 音声仕様: MPEG1 Layer II
- 出力端子: アナログ×2 (RCA×1, XLR×1)、デジタル×2 (TOS×1, 同軸×1)、楽曲ディスプレイ接続専用端子×1
- 付加機能: プログラムタイマー、スリープタイマー、スタートチャンネル設定
- 大きさ: 430W×80H×325D mm
- 重さ: 7.7kg



C-T5000CSの内部の様子。大電流のデコードデータを高音質なアナログ音声出力へと変換するために、合計6つのオペアンプICを用いてアナログ段を構成。導電性高分子アルミ電解コンデンサーや、リード抵抗と表面実装抵抗の特性を両得するダルマ形状のMLF抵抗器を使用し、さらにはアナログ出力端子への配線に純銀ケーブルが採用されている



搭載されるDAC IC、ESS製ES9038PRO (左) は、特許取得済みD/A方式「Hyperstream II」やジッター除去技術「Time Domain Jitter Eliminator」が採用される。同社DAC IC「SABRE PRO」シリーズの最高峰。さらにICの性能を最大限に引き出すべく、その隣に超低位相ノイズのクリステック社製クロック発振器「CCHD-957」(右) を配置。DAC ICを100MHzで駆動させる



昨年末にリリースされたC-T3000CSにも搭載され、その音への影響力が筆者を驚かせたリザーブ電源。Rコアトランスとの組合せでもちろん本機にも投入されている

ンバーターに通せば、電源部の充実が
よく反映された音になる。電源ケーブル交
換による音質向上の余地も大きい。
**C・T5000CSでは
ES9038PROが
ポテンシャルを遺憾なく発揮**

そこからのC・T5000CS登場だ。
従来の最上機C・T1000CSXiは、シ
ラスロジックのDACデバイスを採用した
意欲作で、純度の高い音を聴かせてくれる。
そしてその基本的な設計をベースに、C・
T5000CSはESS社のDACデバイ

ス、ES9038PROを投入してきた。
電源部としてはC・T1000CSXiで構
成したRコアトランスとリザーブ電源の組
合せをキャリオーバーしているが、これ
が120mAというDACチップとしては異
例の電流型であるES9038PROのポ
テンシャルを遺憾なく発揮させる。クロッ
ク発振器にはクリステック社の超低位相ノ
イズの「CCHD-957」を搭載して、
100MHzにて駆動させている。
以上のD/A変換部に対してアナログア
ンプ部も入念で、ミューズの「8920」
を含む6つのオペアンプで回路を構成。導

電性高分子のアルミ電解コンデンサーやM
ELF抵抗なども投入。基盤の配置のきれ
いさなど、開発陣の本気が伝わってくる。
後述するようにアナログ出力はRCA端子
とXLR端子の2系統を備えているが、そ
れぞれに魅力的なキャラクターの音を持っ
ているのも特筆しておきたい。

**充実した低域の下支えが
音楽を聴かせる音」として
高い説得力を成している**

さて、C・T5000CSの音。まずR
CA出力からテストしていったが、かなり

レベルの高い音を聴けた。低域の充実した
実体感の強いトーンで、低音や大太鼓、ト
ロンボーン、チューバといった楽器たちの、
密度の高い、力感を伴った音色感がかなり
チャーミングだ。ジャズでもこのトーンは
もちろん有効でジャズのバップのいわゆる
ブロー感、シズル感みたいなものもけっ
う出てくる。単純にアキュレートなだけ
なく、積極的な音づくりも感じる魅力的な
再生音だ。音色は濃いため、音の温度感と
しても高めに感じる。

全体的に音の密度が高いが、特に低域が
充実していて、この低域の下支えにより、



アナログ音声出力はRCAに加え、XLRバランス出力にも対応。同軸出力部もあわせ、端子には信頼性の高いノイトリック製のものを採用する



真鍮削り出しの脚部。三点支持式を採用する



チューナーの試聴取材は筆者の自宅オーディオルームにて。D/AコンバーターにマイテックデジタルStereo192-DSD DAC M、コントロールアンプにサンバレーSV-192A/D ver.2、パラメトリックイコライザー/アヴァロン・デザインAD2055 & フォーカスライトRED2、パワーアンプにサンバレーSV-2PP (2009)、そしてスピーカーにElecta Amator IIIという、筆者常用のシステムに組み込みチェックを行なう

ConclusionブランドのC-T3000CS(写真上)、そして従来のフラッグシップ機Conclusion C-T100CSXi(同中央)もセット。音の比較も行なった

音楽を聴かせる音として高い説得力が出てくる。サウンドステージとしてはきちんと奥行きが出て、深く展開。オーディオマニアがスピーカーと対峙して聴ける本格的な再生音だ。

以上のRCA端子からの出力に対してXLR端子によるバランス出力。これがまた違った趣きの音を持っている。RCA出力ではサウンドステージが左右のスピーカーを結んだ線に対してやや奥に展開するのに対して、XLR出力では手前に展開。積極的に前に出てくる音だ。音像自体もRCA

ミュージックパード通信

★注目プログラム情報★

▶ 121ch: THE CLASSIC [Premium]
13年ぶりのレギュラー出演〜クラシック
大型新番組

【新番組】「東條碩夫の新スペシャル・セレクション」

10月にスタートする、音楽評論家・東條碩夫による大型プログラム! クラシックのスタンダードな楽しみ方を提案します。

▶ 121ch: THE CLASSIC [Premium]

豪華絢爛なクラシックコンサートを24bit
の高音質で

【WORLD LIVE SELECTION】

毎月第3日曜 12:00 ~ 14:00

再放送=翌週土曜 20:00 ~ 22:00

9月20日は、フィンランドの若き俊英指揮者サントゥ=マティアス・ロウヴァリが登場。自国の偉大な作曲家シベリウスに取り組んだプログラム(「フィンランディア」「交響曲第1番」)をウィーン・コンツェルトハウスでのライブ録音からお楽しみください。美貌と比類なき才能で世界を魅了するニコラ・ベネディッチ(Vn)との共演もお楽しみに(出演:奥田佳道 音源提供:オーストリア放送協会)。

▶ 124ch: THE AUDIO [Premium]

人気オーディオ評論家・麻倉怜士氏が
選ぶハイレゾ

【麻倉怜士のハイレゾ真剣勝負】

毎月第一日曜 11:00 ~ 13:00 (翌週以降リビート)

「アスキー.jp」で連載中のコラムと連動して、麻倉怜士氏が気になるハイレゾ音源をオールジャンルで紹介。ハイレゾ初心者にもわかりやすくオススメします。

▶ 124ch: THE AUDIO [Premium]

オーディオ実験を「聴く」!

【オーディオ実験工房】

隔週月曜 9:00 ~ 10:00

再放送=月曜 20:00 ~ 21:00 (翌週リビート)

炭山アキラ氏と荒川敬氏がスタジオで、一般のオーディオファンにはなかなかできない実験に挑戦。8月24日・9月7日の特集は「プラグで激変? XLR プラグー斉比較」。

▶ 124ch: THE AUDIO [Premium]

オーディオ評論家・菅野沖彦氏の名番組が蘇る

【復刻 菅野沖彦のオーディオフィール】

毎週日曜 16:00 ~ 20:00

クラシック、オーディオファンから高い評価を受けてきた人気番組をアーカイブ放送中。録音エンジニア・オーディオ評論家の菅野氏が、クラシックの優秀録音とは何かを語ります。

ハイレゾに迫る24bit 48kHz
高音質衛星デジタル音楽放送
「ミュージックバード」が
さらにクオリティアップ!
しかも初期費用0円も



MUSIC BIRDとは

- クラシック、ジャズをはじめ、J-POP、洋楽、ヒーリングなど、あらゆる音楽ジャンルの専門チャンネルがズラリ。
- クラシックなら毎月100枚、ジャズ、J-POP、演歌なら毎週、話題の新譜をいち早く聴くことができます。
- 放送曲目を事前にチェックできる、充実のウェブサイト。冊子のソングリストも毎月発行しています。
- 聴取料金は50チャンネルパック2,000円/月(税別)から。

MUSIC BIRDってどうやって聴くの?



受信は専用チューナー&アンテナを設置して、お手持ちのオーディオ機器につなげばOK。直接スピーカーにつなぐこともできます。

※晴天時の午前10時~11時にベランダなどから南南東方向に太陽が見通せればアンテナ設置が可能です。
※日本全国どこからでもお聴きいただけます。

初期費用0円のレンタルプラン

チューナー、アンテナ、標準設置工事が全て無料となるレンタルプランなら、お手軽にスタートできます!(契約期間最低3年)

<コミコミ100>

ハイエンドユーザー向けチューナー「C-T100CSXi」を月額8,000円(税別)でレンタル。50chが聴き放題です。

<コミコミFive>

こだわりのデジタル派ならチューナー「MDT-5CSXi」がオススメ。月額5,000円(税別)で50chが聴き放題。



<コミコミLight>

もっと気軽に始めたいアナタに。月額2,000円(税別)で26chが聴き放題。

※詳しくはweb、またはお電話で!

お問い合わせ・資料のご請求、
お近くのミュージックバード販売店のご案内は

ミュージックバード カスタマーセンター

TEL 03-3221-9000

<平日>10:00~12:00、13:00~18:00
(※土・日・祝休業)

<https://musicbird.jp>



フロントパネルの切替えボタンを操作することで、放送出力のサンプリングレートを48kHzから96kHz、さらには192kHzまでアップサンプリング可能。D/Aコンバーターとのデジタル接続時に操作を行なったところ、D/Aコンバーターの表示パネルに「PCM 24-192」(=192kHz/24bit)の文字が現れた



●鈴木 裕・出演番組
「オーディオって音楽だ!」
THE AUDIO【Premium】:
124ch

多彩なゲストを迎えつつ、クルマの両輪とも言えるハード(=オーディオ)とソフト(=音楽)の両面を掘り下げていく人気番組。毎週木曜9:00~10:00放送。再放送は毎週木曜20:00~21:00。アーカイブ放送は毎週木曜の10:00~11:00と21:00~22:00

出力と比較すると大きめ。さらに音の分解能が高まり、音像を描写する線が若干細めになるのも大きな特色に感じる。

**適宜変えて楽しみたい
アップサンプリング機能**

そしてC・T5000CSにはアップサンプリングの機能があり、オリジナルの48kHzだけでなく96kHzや192kHzにアップサンプリングした音を楽しめる。短くまとめると、オリジナルの48kHzはもともと実体感の強い音でダイレクトに音楽に向き合える。これに対して96kHzでは音に開放感が出て空間が伸びやかに、サウンドステージはやや奥に展開する傾向。音像の精度が上がると、特徴的だ。

192kHzでは96kHzと比較してもさらに空間的な広がりが出てきて、左右や奥行き方向だけでなく、天井方向への空間的な広がり方がいい。音像の細部もよく描かれ

てくるので特にクラシックに向いている。ジャズでは録音年代が新しくなったような感じだが音のテンションが落ち、良く言えばリラックとした感じ。悪く言えばジャズのプレイの熱気が下がる。実は筆者はアップサンプリングに対して懐疑的な部分があるが、もともと重心の低い、実体感の強い音なのでC・T5000CSにおいてのアップサンプリングした音はアリだと思った。曲によって適宜変えて楽しみたい。

採用しているパーツ、回路の洗練度、そして実際の音においてC・T5000CSのパフォーマンスの高さ、音の魅力は高いものがある。オーディオチャンネルの番組で、ケーブルやオーディオアクセサリーのテストの聴き分けも見事に体験することができた。